

【だんぶり池づくりで配慮したこと】

HEP21自然環境グループでは、だんぶり池を創るにあたって、以下のようなことに配慮し、市とパートナーシップにより協働して整備することとしました。

1. 二次的自然環境（原生自然ではない）の復元をめざす

休耕田を活用した「とんぼ池」づくり

田んぼ 水稻を栽培する場所・(人の手が加わった)二次的自然

用水路と排水路(動脈と静脈)が整備されている

溜め池・小さなダム(貯水・地下浸透・蒸発)・湿地としての機能あり

多様な生物(昆虫・淡水魚・両生類・鳥類・植物など)の生息場所

2. 自然の力による再生・復元をめざす(無移植:持ち込まない)

3. 生物多様性を確保する(池の水深・形態等に変化をもたせる)

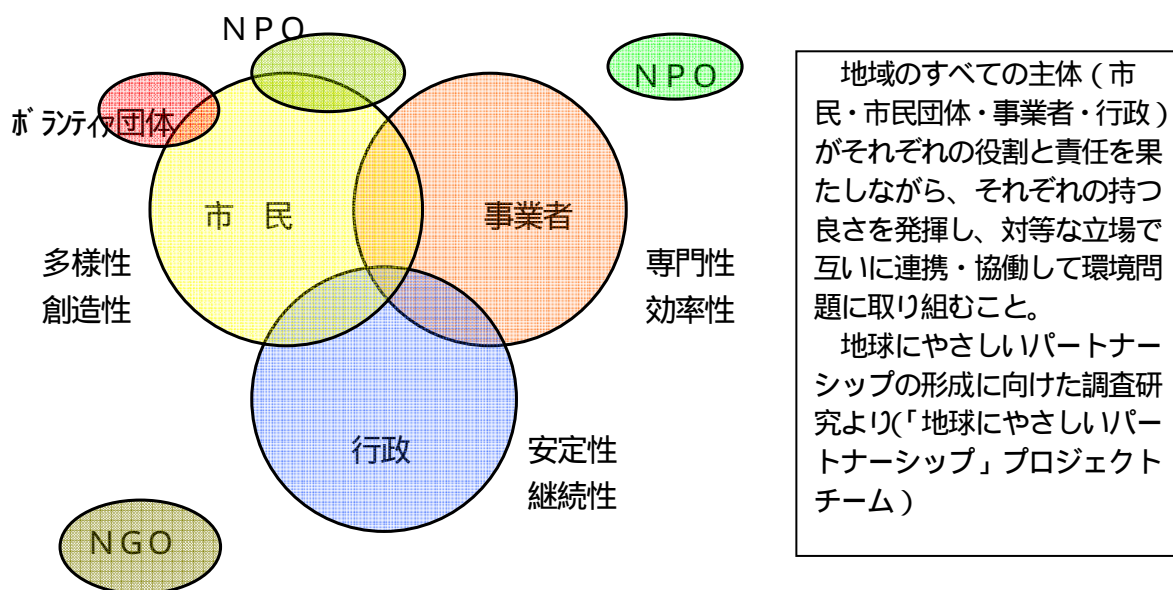
4. 最低限の管理(湿地・湛水池の確保)

5. 環境教育・環境学習の場として活用する

6. 自然とのふれあいの場を提供する(特に都市住民に対して)

7. パートナーシップ(市民・事業者・行政)で整備する

環境パートナーシップ概念図



重なりあった部分が「協働」を指し、協働の仕方を規定(対等な立場・役割分担等)するのがパートナーシップである。